

三十八回蒼天句会 今月の一旬

令和七年十二月十一日 兼題・小春、又は自由

山羊の仔のまつげは真白風花す

公子

よろめくも転ぶも可笑し木の実独楽

婦紗子

小春空表彰台に金の手話

賢一

竹林を抜けて小春の入日かな

繁一

寒暁や祈りのさまに風の塔

孝志

幸せの日持ち束の間冬茜

洋一

月さし来ひざに零るるクロワツサン

信江

野の花を活けて朝餉の寒卵

静江

年の瀬や妻を二度見の割烹着

鎮夫

小流れに透ける魚影や小六月

国祥

年の瀬の仲店通り干支飾る

隆彦

深川や時雨かけたる清洲橋

重子

小春日や抓んで引いて耳のツボ

朱美

末枯れしメタセコイアの並木路

紹子

出迎への足音たたクリスマス

晴代

引越の家具の置き換えはや師走

久恵